

 Garoon

導 入 事 例

interview for

アトムグループ





アトムグループ

■ DATA:
ご利用規模：630 ユーザー
ご利用製品：クラウド版 Garoon、kintone

医療・福祉・教育 ライフイベントを支えるサービスを展開するグループ内の社内コミュニケーション基盤に、24 時間 365 日安定して稼働するクラウド型グループウェアを選択

「ふる里みたいな町づくり」を基本理念に掲げ、医療・福祉・教育事業を中心に愛媛県内で多角的な事業を展開しているアトムグループは、2000 年の介護保険制度施行をきっかけにグループの IT 統一化に積極的に取り組んできました。各事業部で個別に運用されていた IT システムを集約し、IT システム面からグループ全体を支える「アトム総合企画株式会社」の上田常務、情報システム部の曾根田部長、渡部次長とアトムグループ「医療法人順風会」システム・会計部の新田部長にお話を伺いました。

導入前の課題 グループ全体のコミュニケーション基盤として 24 時間 365 日、安心して支えるグループウェアを探していた

2014 年に Garoon を導入・運用を開始したアトムグループ。Garoon の導入前は他国産メーカーのパッケージ型グループウェアをホスティングサービス上で運用していました。

「以前のグループウェアは、ホスティングの専用サーバーで使っていましたが利用年数を重ねていくにつれ、サーバーの容量不足が問題になりました。ユーザーに『(ダウンロード済みや使い終わった) データは削除するように』というアナウンスばかりをしていました。」曾根田氏

「年に 2,3 回はサーバートラブルで止まってしまい、

土日サポートをしてもらえないサービスだったのも課題でした。当グループのメイン事業である、医療・福祉・教育は土日が休日とは限りません。社内の IT システムは、24 時間 365 日安心して使えるものを選びたい・・・という思いがありました。」渡部氏

グループ全体の従業員数は約 2,700 名 (約 40 事業所)。

異業種・多職種の集合体で、全国でも稀な企業体でもあるため、システムの統一・運用には数々の困難が立ちふさがっているとのこと。

にもかかわらず、グループ全体の IT システムを支えている情報システム部門の人数は、わずか 6 名の精

鋭部隊です。

「全従業員が IT を使いこなすためには、各事業所の『IT 責任者』がキーマンになります（いわゆる、情報システム部門の分身）。彼らに求めるものは、現場の業務を知り、課題を見つけ、それを解決するにはどうしたらいいか？と論理的に考え、解決方法を見つけられること。解決方法に IT を使えるかどうか、を見極められることが重要です。

情報システム部門の最大の役割は、彼らを育成しながら、一緒に解決方法を考えて行くことにあります。技術革新が目覚ましいサーバーの構築や運用は、ベンダーに任せたい。我々に最善の提案ができるベンダー、安心して任せられるサービスを探していました。」上田常務



上田 和人様

アトムグループ
総常務取締役

導入の決め手 カスタマイズ不要で使い始められるパッケージの手軽さと、稼働率に安心感のあるクラウドサービス

サポート切れのタイミングで、グループウェアの移行

「従業員の IT リテラシの幅が大きいため混乱がないよう、以前のグループウェアと使い勝手は似ているものがあると思っていました。なので、スケジュールや社内メール、掲示板、ファイル管理などのアプリケーションがあらかじめ揃った製品ということで Garoon の検討をはじめました。検証の段階で、クラウド版の Garoon のレスポンスの速さは高く評価しました。」曾根田氏

レスポンスの他に、クラウド版 Garoon の標準機能

である全文検索も評価のポイントだったそうです。

「当社では、OpenOffice も使っているのですが、OpenOffice で作成したドキュメントを Garoon に保存すると、中身まで検索対象にしてくれることには驚きました。」渡部氏

以前のグループウェアでは容量不足も課題になっていましたが、移行した 2014 年の時点で Garoon の容量は 1 ユーザーあたり 3GB。全体では約 2TB あったため支障なく使えるようになったそうです。さらに 2015 年 2016 年には 1 ユーザーあたりのユーザー数が 5 GB になるアップデートがあり、利用開始から

4年目の現在では全体で3TB以上の容量があり「容量については全く気にしなくてよくなった」とのことです。

また、導入にあたってはサービスの稼働率にも注目。cybozu.comは、2011年のサービス開始以降、99.9%の稼働実績を残していることから安心して選びいただきました。



曾根田 有二様

アトムグループ
情報システム部 部長

cybozu.com 稼働実績

	ログイン	Garoon	kintone	サイボウズ Office	メールワイズ
2018年8月	99.961%	99.964%	99.956%	99.973%	99.976%
2018年7月	99.987%	99.985%	99.994%	99.998%	99.998%
2018年6月	99.991%	99.995%	99.993%	100.000%	99.999%
2018年5月	99.982%	99.983%	99.962%	99.991%	99.992%
2018年4月	99.993%	99.994%	99.979%	99.999%	100.000%

Cybozu.comはサービス稼働率99.99%を目標(SLO=サービスレベル目標)に運用します。
※計画メンテナンスを除く

<cybozu.comのサービス稼働率は毎月Webサイトで公開しています(<https://www.cybozu.com/jp/service/slo.html>)>

Garoon に記録する運用の定着で、 口頭による曖昧な意思疎通で発生して いたすれ違いを一掃

Garoon で主に使っているアプリケーションは「メッセージ（社内メール）」「スペース」「掲示板」「ワークフロー」。中でも、メッセージとスペースの利用頻度が高いとのこと。ふたつのアプリケーションは、どのように使い分けているのでしょうか。

「明確に運用ルールは設けていないのですが、それぞれのアプリケーションの宛先指定方法の違いと扱う情報の内容によって分けています」曾根田氏

「メッセージは宛先を個人名で指定して、依頼や相談のたびに新しく作成するので非定形のやり取りでよく使っています。当社では、社外とのやり取りにはGSuite の Gmail を使い、社内とのやり取りにはGaroon のメッセージを使うことで、Eメールの誤送信が発生しないようにしているのです。ユーザーは社内の人にEメールを送る感覚でメッセージを使っています」上田常務

「スペースは『常にこのメンバーに共有しておきたい』っていうメンバーで立ち上げて、要件はディスカッションを分けています。メッセージのように宛先を毎回指定しないでもいいのが楽でいいですね。日次・週次などの単位で報告フォーマットが決まっている事柄の報告場所としてもスペースを使っています。フォーマットはコピーして、報告毎にコメントが返せるところが使いやすいです。

また、健診事業の電話受付業務や、インシデントの管理等で Kintone を活用し、データの2次利用が必要な業務をデータベース化しています。これにより、各データの統計が可能となり様々な傾向が読み取れ、今後の対策を検討する上で有益な情報を得ることができています。Garoon と連携しスムーズな報連相が実現できているのは言うまでもありません。」新田氏



<関係するメンバーがきまっている議題のやりとりにはスペースを活用>

「グループウェアを使う前は口頭ベースでのやり取りが多かったんです。口頭で依頼すると、その場ではうんうんと聞いていても、実は依頼した側の意図と受けた側の理解が異なっていて、間違っただ対応をしてしまった、とか。一度に複数の依頼をされて、そのうち 1,2 個対応が漏れてしまった、とか。ちょっとしたすれ違いや、あとになって言った・言わないのやり取りになったり。そういう課題を解決するために、小さなことでもタスクが発生することは電話で済まさないように、口頭ではじまったことでも Garoon に記録することを徹底しました。記録することは手間がかかるように見えるけれど、結果的には近道。仕事の質は格段に上がっています。」上田常務

「Garoon に残しておくことで翌年以降の業務にも役立つし、これまでどうやって処理してきたかがすぐにわかることもメリットですね。」新田氏



渡部 浩明様

アトムグループ
情報システム部 次長



新田 昌弘様

医療法人順風会
システム・会計部 部長

グループで働く誰もがITの恩恵を受けられるように。 そして、ICTによる地域とつながった健康まちづくりを目指す。

高齢化社会を迎え、行政に任せておけば全てやってくれるという時代は既に終わっている。健康づくり、介護予防、共働き社会、防火・防災など多様なテーマで、子供や障がい者、高齢者との交流が広く行えるのは、アトムグループの強みと語ります。

「当社は、異業種の集合体ではありますが、これらが有機的に結合し効果をあげる為には、各部門間での完璧な意志統一が必要不可欠です。サイボウズというツールを使いこなしてきたことで、今となってはほぼ理想形として実現し、経営に活かされていることを実感しています。

今後は更に、地域と一体となった『新たな生活モデ

ルの実現（地域包括ケアシステム）』に、チャレンジしていきたい。

情報システム部門は、IT技術の向上と同時に、現場に関わる人たちに寄り添っていくことが重要だと考えています。

」上田常務

「高いハードルを超えなければならないITではなくて、音声入力や手書きの自動テキスト化など、働く人に負荷をかけずにITの恩恵を受けてもらいたい。そういう環境を目指して作っていくのが仕事だと思っています。」曾根田氏

